

地域のみな様と、私たちがむすぶ広報誌



公立南丹病院

Nantan General Hospital

Vol.22

2014.7
Summer
夏号



約4.5haの面積に20品種、約800万本のコスモスが風にそよぐ姿は毎年圧巻である。9月初旬から11月初旬まで開催されている。よく目にする「センセーション」という品種の他、「イエローキャンパス」、「ハッピーリング」、「ソナタ」、「サイケ」など珍しい品種もある。夢コスモス園内では、「丹波味わい市」や「創作かかしコンテスト」などのイベントも開催されている。

臨床研修指定病院 京都府がん診療連携病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター DMAT指定医療機関

公立南丹病院

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
TEL 0771-42-2510 (代) FAX 0771-42-2096
<http://www.nantanhosp.or.jp>





病院の理念

公立南丹病院は、この地域の住民の生命健康を守る最終拠点病院である。

このことを病院職員は深く認識し、患者さんの権利を守り、患者さん中心の医療を行い、患者さんから愛され信頼される病院をめざす。

2014.7
Vol.22
夏号

CONTENTS

- 新たな夏を迎えて①
- 熱中症にやられないために②
- 診療科紹介[内科系]-消化器内科...③
- 診療科紹介[外科系]-産婦人科④
- 部門紹介 認知症疾患医療センター⑤
- 公立南丹看護専門学校⑥
- DMAT研修に参加して⑦
- 輸血研修会⑧
- 病院に勤務して⑧
- 近隣の連携医療機関の先生方⑨
 - 加藤医院
 - 仁丹医院
- 看護職確保定着推進事業
「看護職就職・就学合同フェア
2014」に参加して⑩
- お知らせ
「脳神経・脳卒中センターの
対応について」⑩
- 「2025年問題」をご存知ですか。...⑩
- 公立南丹看護専門学校学校公開の
お知らせ
- 看護師・助産師募集
- 病院の夜間出入り口について
のお知らせ
- 編集後記

新たな夏を迎えて

院長 ^{たつみ てつや} 辰巳 哲也



新緑の季節が訪れるや、すぐに蒸し暑い夏日のような暑さが続き、早くも梅雨の季節となりました。最近世界的にも気候の変動が大きいようで、冬の厳しい寒さや夏の激しい暑さ、局地的な豪雨にみまわれることもあり、皆様方には体調にくれぐれも留意されてご活躍頂くことを願っております。

私は公立南丹病院に赴任して以来、季節の移り変わりをこの地域の田園風景とともに感じてまいりました。6月を水無月みなづきと呼ぶのは、田に水を張る必要のある月みづはりつき「水張月」、田植という大仕事を仕終えた月みなしつき「皆仕尽」、梅雨で天の水がなくなる月など諸説あるようですが、今は近隣の多くの方の田植もほぼ終わり、稲が無事に育ち秋には黄金色に輝く稲穂に成長することを楽しみに毎日通勤しています。またこの時期には京都市内の疎水沿いでも、梅雨の合間の夕闇に螢の飛び交う光景がみられ心をなごませてくれます。

さて5月には長年にわたり南丹病院を支えて来られました梶田総長が御逝去されました。京都府立医科大学吉川学長、佐々木管理者をはじめ、病院職員の皆様のご尽力により葬儀が厳粛に無事終わりましたことを厚く御礼申し上げます。また御家族様には重ねましてこの場をお借りして、謹んで心よりお悔やみを申し上げます。その後、御参列頂いた方々への御挨拶のため、府庁や京都府立医科大学を訪問させて頂きましたが、多くの方から梶田総長を惜しみ、その御功績を称えるお言葉を頂戴致しました。また私には南丹病院への高い評価と今後の期待、院長職就任への温かい激励と変わらぬ御支援を賜り大変勇気づけられました。

南丹医療圏は京都府全体の約25%を占める広域な医療圏です。先日は美山林健センターの診療に行っていました。僻地医療への支援と高齢化対策を実感しました。4月より脳神経・脳卒中センターが24時間対応困難な状態となっていることも深くお詫び申し上げ、今後への対策に一層の努力をしていきたいと考えております。また慢性的な看護師不足により一部の病棟が閉鎖しており、病棟の復活を願う声をお聞きし、実現に向けての努力をしていきたいと思います。

4月からの診療報酬改定に伴う病床再編は当院のみならず、地域の医療体系にも大きく影響を与えます。病院職員の役割分担を明確にし、組織を環境に順応できるプロフェッショナルなものへ充実させていく必要があります。南丹病院がこの地域での急性期疾患やがん診療などの高度医療を担いつつ、地域包括医療の中心的役割を果たして最終拠点病院として発展していくように、今後とも皆様の御協力と御支援をどうか宜しくお願い致します。

また今年も新しい夏がもうすぐ訪れます。7月には東の夜空を見上げ、七夕伝説を思い浮かべながら夏の大三角をなす最輝星ベガ(織姫星)とアルタイル(彦星、牽牛星)、デネブを探してみたいと思います。梶田総長が夜空から私と南丹病院の未来をいつまでも見守ってくださることを願いながら。

熱中症にやられないために

循環器内科部長・救急部長（内科系） 計良 夏哉^{けいら なつや}

平成25年夏期(6月～9月)の熱中症による救急搬送者数は6月から調査を開始した平成22年以降で最多となりました。政府においては、平成25年度から、熱中症搬送者数や死亡者数の急増する7月を「熱中症予防強化月間」と定め、国民や関係機関への周知等の効果をあげて、熱中症の発生を大幅に減らすよう熱中症予防の取り組みを推進することとしています。

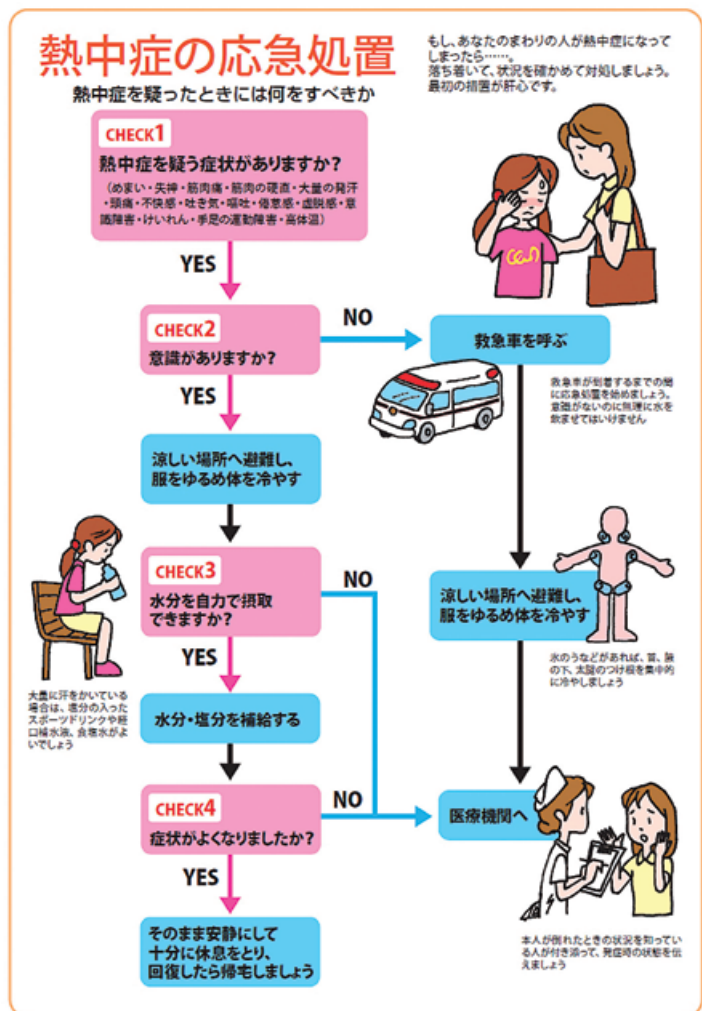
未成年者はスポーツ中に、青年壮年者は仕事に、高齢者は日常生活で熱中症を発症し、高齢者ほど入院が必要で、重症化しやすいことは、いくつかの統計データからも明らかです。環境省、厚生労働省、総務省消防庁、文部科学省などのホームページをみると、それぞれの立場から熱中症についてのマニュアルが作成されており、熱中症対策はもはや「国家プロジェクト」であることが分かります。熱中症患者を出すことで、スポーツの指導者や使用者(雇い主)の管理責任が問われることもあり、勇気を出して練習や試合、イベントを中止し、炎天下などでの仕事を控えることも必要かもしれません。また、高齢者にとっては、家族や地域社会の見守りの強化も期待されることです。

暑さ指数(WBGT:Wet-bulb Globe Temperature:湿球黒球温度)は、環境条件としての気温、気流、湿度、輻射熱の4要素の組み合わせによる温熱環境を総合的に評価した指標であり、本指数を用いた「熱中症情報」も新聞やテレビの天気予報など多くのところで目にするようになりました。

熱中症は、適切な状況判断と自分自身の健康管理で予防が可能の場合も多く、さきのマニュアルでも多くがその予防法の啓蒙に重点が置かれています。これらの情報は信頼性を吟味することが必要ですが、公的機関の発行するものはどれも差がなく、信頼できますので、簡単なものを参照するので良いかと思われます。対策については、①暑さを避けて、②こまめにのどが渇く前から水分補給を、③急に暑くなる日に注意し、④暑さに備えた体づくり、⑤もっている病気や生活習慣などの個人の条件への配慮を、⑥集団活動の場ではお互いに配慮するなどがあり、高齢者や子ども、スポーツをする人、エアコンの効いていない職場や炎天下で仕事をする人にはさらに注意が必要ですが、患者さんの方がお詳しいのではないかと思います。ただし、救急受診をされた方とお話をさせていただくと、自身の体力・気力を過信しないことも肝要かと思われます。

熱中症対策を講じていても熱中症になってしまうのは仕方ありません。以下に「熱中症の応急処置」で分かりやすいものを引用しました。熱中症を疑うさまざまな症状、すぐに救急車を呼ぶのは意識がないもしくは意識がおかしい場合で、意識に問題がなくても、①涼しい場所へ移動し、体を冷やしても水分がとれない場合、②水分・塩分を摂取しても症状がよくなる場合には医療機関への受診がすすめられます。

公立南丹病院では、毎年6月ごろに救急室の医師・看護師を中心に、熱中症の診療手順についての再確認を行っています。熱中症は適切な対応で受診が不要なこともあります。迷われる場合には、お気軽にお問い合わせいただければと思います。



環境省発行「熱中症環境保健マニュアル2014」から引用

消化器内科 *Gastrointestinal Medicine*

消化器内科部長 かねまさ ひでとし
金政 秀俊

現在の消化器内科は金政秀俊、辰巳陽一、井上香織、鄭 哲臣、石田紹敬の常勤医師5人で外来、入院、検査、治療を担当しています。ほか、非常勤医師5人に検査を応援してもらっています。

消化器内科は、たくさんの臓器（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓）を対象とする科ですので、病気も種類が多く多彩です。それら多くの病気に対し迅速、正確に診断し早期に治療することを心がけています。特に日々、進歩し続ける消化器内視鏡（カメラ）による診断、治療技術を駆使し診療を行っています。内視鏡検査数は胃カメラ、大腸カメラあわせて年間約5千例を施行しています。

治療では、消化管出血に対する内視鏡的止血術、早期胃がんや大腸がん、ポリープに対する内視鏡的切除術、高齢化に伴い増加傾向にある嚥下困難の患者に対する内視鏡的胃瘻造設術。胆道結石については内視鏡的結石除去や胆道がんに対してのステント留置等々。また、肝臓、膵臓疾患については超音波検査、CT、



MRIなどの各種画像検査や内視鏡的膵胆管造影検査などを用いて悪性腫瘍の早期診断に努めています。他にも、最近増加してきている炎症性腸疾患に対しては腎センターに協力してもらい白血球/顆粒球除去療法を積極的に行っています。

切除不能な進行したがんに対する抗がん剤治療も最新最善の方法を選択し治療できるよう努力しています。残念ながら治療困難ながん患者さまもおられますので、緩和ケアについても緩和医療部とともに研鑽し取り組んでいます。京都府立医科大学附属病院との協力体制も構築し常に最新、先進の医療が提供できるようにしています。

最後に、最近話題のヘリコバクターピロリ菌について。ピロリ菌と胃がんの関係が明らかになり、当科でも積極的に除菌治療（薬を7日間飲んでもらいます）をおこなっています。ピロリ菌について質問、治療などの希望がありましたらぜひご相談ください。



産婦人科

Obstetrics and Gynecology

産婦人科部長 土屋 宏

産婦人科は、ご存知のように産科と婦人科よりなっています。

産科は、この医療圏で唯一の総合病院にある産婦人科のため、24時間当直医がおり、多くの分娩を取扱い、合併症のある妊婦や産後に出現した疾患に対応し、他院での分娩後の異常での救急搬送にも対応しております。また、小児科の協力により、妊娠30週以上、胎児の推定体重1,000g以上の症例に対し、南丹医療圏以北からの救急母体搬送に対応し、緊急帝王切開も行っています。一時、常勤の産婦人科医が2名となったため分娩制限しましたが今は3人体制が維持され、制限は解除されています。

分娩は基本、自然分娩を行っています。分娩の途中で陣痛が弱くなったり、分娩予定日を超えてきた場合には慎重な管理の下に陣痛促進剤の使用もしていません。分娩中に何か異常があれば小児科医に立ち会ってもらいます。しかし異常所見がなくても新生児の約10%は何らかのサポートが必要となり、そのうちの90%以上が比較的単純な処置で蘇生できます。このため当院でも産科のある病棟では、医師、助産師はじめ多くのスタッフが日本周産期・新生児学会の新生児蘇生法「専門」コースを修了して備えています。

また、当院での不妊治療は、卵管造影やホルモン検

査などの検査を始め、排卵時期を患者さんに知らせるだけのタイミング法と卵巣の中での卵の成長を飲み薬や注射で促し、排卵誘発剤を使用する方法までとして、体外受精は行っていません。

婦人科は、膣炎や子宮脱などの骨盤臓器脱、良性疾患の子宮筋腫、子宮内膜症や卵巣腫瘍などの治療、悪性疾患では、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんの手術や抗がん剤治療などに対応しています。また、月経不順や無月経、月経前症候群、更年期障害に対し、ホルモン治療や漢方薬による治療を行っています。術式としては手術の傷が少なく入院期間も短くなる腹腔鏡下手術を積極的に行っています。また、婦人科でトビックスであった骨盤臓器脱に対するメッシュを使用した術式も取り入れるなど、南丹医療圏での産科および婦人科の疾患にできるだけ当院で対応しようと考えております。産婦人科疾患では、先ず当院を受診していただき、外来担当医にご相談ください。



部門紹介

認知症疾患医療センター

精神保健福祉士 しばさき ゆうき 柴崎 友希



夏空がまぶしく感じられる季節になってまいりました。皆様、どうお過ごしでしょうか。

さて、南丹病院に平成26年3月より「認知症疾患医療センター」が誕生したのをご存知でしょうか。現在、火・木曜日の午前に診療を行っています。新たに、老年精神医学専門の先生と臨床心理士が加わり、より充実した体制となりました。BPSD（行動・心理症状）に対する専門的な診断・治療の提供やより詳細な認知機能検査ができるようになっていきます。

診療日以外も平日8:45～17:00に認知症に関するご相談をお受けしています。私自身、まだまだ未熟ですが、少しでもお役に立てるように日々努力していきたいと思っております。お困りのことがございましたら、お気軽にお電話ください。

TEL 0771-42-5703（直通）

センターのスタッフのご紹介



まつおか てるゆき
松岡 照之（京都府立医大・精神科医師 / 木曜日 非常勤）

平成16年4月～平成18年3月まで研修医として南丹病院で勤務させていただき、この度週1回木曜日午前に認知症外来を担当させていただくことになりました。研修医が終わってから精神科に進み、現在は老年精神医学を専門にしております。研修医の時にお世話になった南丹病院に恩返しできるように頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。



ゆみば ひろゆき
弓場 洋之（臨床心理士 / 火曜日 非常勤）

3月より当センターの臨床心理士（認知機能検査担当）として配属になりました。浅学非才ではございますが、地域の皆様のお役にたてるよう、精一杯努めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。



たちばな あき
橋 亜紀（京都府立医大・臨床心理士 / 木曜日 非常勤）

南丹病院での勤務は、今年で2年目になります。まだまだ、新米ですが、精一杯力を尽くしていきたいと思っています。

さとう かつあき
佐藤 克明（センター医長・内科医・認知症サポート医）

以前は生活習慣病を中心とした内科診療をしていましたが、約2年前に「もの忘れ外来」を開設して認知症診療にも携わるようになりました。加齢に伴う身体的な衰え以外に、脳の働きが低下して様々な不具合を生じる人が増えてきたことに日々驚いています。少子高齢化社会となり、介護する側も相当な負担を感じることも多くなり、社会全体でよい解決策を生み出していく必要があります。「認知症疾患医療センター」を一つの拠点として地域全体で問題解決をしていけるよう、皆様方のお力添えをよろしくお願ひいたします。



全国でも先進的な取り組みをされている「敦賀温泉病院・認知症疾患医療センター」玉井 顕院長（右）と

公立南丹看護専門学校では、平成26年4月に40名の新入生を迎え平成26年度のカリキュラムがスタートしました。

4月11日に、京都中部広域消防組合八木分署のご協力をいただき、1・2年生合同で防災訓練を行いました。避難はしごを使った避難訓練・煙体験・消火器を使った消火訓練・防災指導者による地震体験などを行いました。専門家の指導のもと、学生同士協力し合い、真剣に取り組むことができました。



5月23日には、1年生にとって、入学して初めての学外研修が西国廿一番「穴太寺」で行われました。法話「仏の暮らしと私たちの暮らし」、写経、座禅を通して自己を見つめ直す機会になり、また、グループで行動を共にすることにより、クラスの親睦を深めることができました。



看護学校の動き

4月末より3年生は、公立南丹病院をはじめ地域の訪問看護ステーション・地域包括支援センターなどで臨地実習が始まりました。また、2年生は、6月に老人福祉センターや公民館等で実習させていただきました。1年生は、八木の社会福祉教育協議会を通して、模擬患者さまをお願いし、実習前の演習を行いました。本校看護学生は、地域の方々に育てていただいています。今後ともよろしく願いいたします。



DMAT研修に参加して

外科部長 福田 賢一郎
ふくだ けんいちろう

H26年5月21日から5月24日までの4日間、兵庫県災害医療センターで平成26年度第1回日本災害派遣医療チーム研修(通称:DMAT 隊員養成研修)が開催された。通常、DMATは医師2人、看護師2人、業務調整員1人の合計5人で1チーム構成される。国が災害拠点病院に最低1チームずつ整備している事業の一つである。公立南丹病院にはすでに2チーム存在している。毎年数回養成研修が神戸と東京(立川)で行われているが、全国の病院から応募がありなかなか参加枠がとれない状況である。

今回は西日本の府県単位で11チーム(56人)の募集があり、京都府からは変則的ではあるが混成チームが結成され、医師は私(外科)と済生会京都府病院小児科の奥村能城先生、看護師は当院の救急看護認定看護師である前田絵理子師長と福知山市民病院の山崎貴史看護師、業務調整員として済生会京都府病院の山岡豊主事と兵庫県災害医療センター放射線科下田智之技師の計6人でチームを組んで研修にあたった。

1日目は広域災害救急医療情報システム(EMIS)にパソコンを使って入力をする練習や広域搬送(ヘリや自衛隊輸送機での搬送)、災害現場でのトリアージタグを用いた机上訓練など座学が中心であった。

2日目は福知山脱線事故をモデルとした局地災害のシミュレーションを行った。現場救護所の設営から広域搬送をいかにDMATのチームが協力して組織的に行うか、複数のDMATのグループで研修した。午後からは、人形を使って実際の救急処置訓練を行った。訓練は連日朝8時半から夜7時までとかなりのハードスケジュールであったが、本当の災害時にはもっと大変だと思う気持ちの方が強かった。

3日目は大地震発生時のDMAT派遣のシミュレーションを行った。派遣要請を受けて資機材を準備し、出発、現場到着までのルート設定や到着後の配属、救護活動、活動内容報告、撤退までを机上で行った。午後からは筆記試験と実技試験(トリアージと救急医療実技、パソコンでのEMIS入力など)が行われた。その後、夜8時から懇親会が開かれたが、講師の先生方も交えて夜12時ごろまで熱く各病院の実情を語り合ったり、東日本大震災での実際の活動状況について生の声を聴いたりできた。チームメイトや全国のDMAT隊員との絆も深まったことは言うまでもない。

最終日4日目は神戸から隣の三木市にある兵庫県広域防災センターへバスで移動して、実地訓練が行われた。このときはじめていわゆるDMAT隊員の活動服を身にまとい、ヘルメットも着用して消防隊と合同で訓練を行った。設定1はヘリ搬送されてきた患者を一時収容して輸送機に載せ替えて広域搬送する空港内での活動であった。設定2は列車事故発生で消防隊と協力して現場から傷病者を救出して救護所に一時的に運んで応急処置を施し、搬送する活動であった。模擬患者20人ほども参加して、実戦さながらの緊迫した訓練であった。修了式をおえて5:30に神戸に戻ってきたときはさすがに疲労を覚えたが、同時にDMATの一員になって身の引き締まる思いがした。



災害は忘れたころにやってくる。地震だけではなく、福知山花火大会での事故など身近でも起こっている。いざという時には準備をしてもスムーズにいかんことは容易に想像できる。それだけに日頃から意識して個人でできること、病院職員としてなすべきこと、そしてDMATとしてすべきことを整理しておくことが大切だと感じた。そして、大変な時には全国からDMATが応援にきてくれるし、また、逆に応援に行かなければならないと思った。この研修を機会に当院の災害拠点病院としての役割をもう一度考え、体制を整える一助としたい。

輸血研修会

臨床検査技師主任 まつだ 松田 あけみ

平成 26 年 4 月 25 日 (金)、公立南丹病院講堂にて第 1 回輸血研修会を開催し、224 名の多くの方にご参加をいただき、皆様の関心の高さを知り、実りのある研修会になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

講師に京都血液センターの方をお招きし、医療安全対策の観点からご指導いただきました。基本的な血液型の成り立ちを冒頭に、輸血で一番怖い不適合輸血のお話では、例えば O 型に対して別の血液型を輸血してしまった時、O 型は抗 A・抗 B 抗体を持っているので赤血球が破壊され血管内で溶血が起こり DIC ショックを引き起こしてしまい、重篤な副作用を起こします。そのため血液型を間違えないように輸血バッグの取り扱い時や輸血の際にも必ず二人以上で確認をすることがとても重要であることを詳しく説明していただきました。続いて輸血バッグの適切な使用については、赤血球・新鮮凍結血漿・血小板製剤にはそれぞれ適正な保存温度があるので冷蔵及び冷凍庫の温度管理を徹底し、有効期限も考慮して貴重な血液製剤を無駄にしないように適正に使用すること等をお話いただきました。そして、トピックスとしてニュースでも話題になった輸血によって HIV 陽性となった事案をお話していただきました。

献血された血液は、HIV に対して血清学的検査と NAT (核酸増幅検査) を行っています。2 名の患者が同じ献血者による輸血バッグで輸血したところ、うち 1 名が HIV 陽性となりました。これは献血者が感染後すぐに献血したために HIV 検査をした時点ではまだウイルスが極微量で二重の検査をすりぬけてしまったという背景があります。個人差はありますが感染してから抗体ができるまで 8 週間程かかります。ウイルスの検出できない期間を短縮する方法で NAT を行いますがそれでも 6 週間程の空白の期間があります。より精度を高めるため今まで 500 検体まとめた検査方法から本数を減らして検査し、今後は 1 検体ずつ行う個別 NAT の実施準備をしています。加えて献血の際に問診を徹底し、特に同性間での性的接触がなかったかを自己申告していただくことが大変重要になります。以上のように、医師・看護師・コメディカルだけでなく、事務職の方々にもより安全な輸血療法とその管理を研修できた絶好の機会だったと大変好評でした。



病院に勤務して

3階西病棟 たなか 田中 ゆかり、ほんだ 本田 留美子、るみこ 吉田 潤子、よしだ 宮崎 卓也

公立南丹病院に就職して 3 か月が過ぎました。憧れの看護師として働き始め社会人、医療職としての責任の重さを改めて感じています。壁にぶつかる度に自分自身と向き合い知識不足・技術不足に焦りを感じることもありますが、同時に新たなことを学べる楽しさも感じています。先輩、同期に支えてもらいできることが増えていくことが自信につながっています。また日々患者さまの暖かいお言葉や笑顔が励みとなっています。一日も早く一人前の看護師となり地域の皆さまの力になれるよう初心を忘れずがんばってまいります。

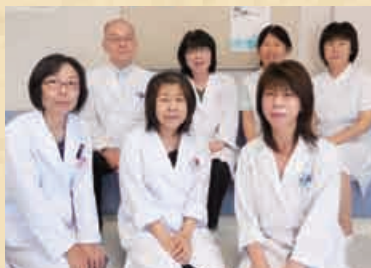


近隣の連携医療機関の先生方

加藤医院
かとう けいいちろう
加藤 啓一郎

「お世話になっています」

平成3年に亀岡市東部の見晴団地で内科・消化器科医院として発足。父が下京区で開業医をしていましたが一緒にできる



ほどの余裕がなく亀岡市で新規に開業しました。あれから23年、周辺は著しく変わりました。農地に取り囲まれていた医院も住宅街の真っ只中に変貌し、さらには若いファミリーが多かった団地も高齢化が顕著になりました。

開業当初より南丹病院にはいろいろとお世話になっております。昔から周辺住民の南丹病院への信頼には厚いものを感じています。亀岡市東部ともなりますと京都にたいへん近くなりますが、それでも対極にある南丹病院へ紹介を希望される方が多いことが物語っています。時代が変わり人が変わっても地域の信頼を維持されていることはたいへんな努力の賜物であると思います。南丹病院で紹介先だったあの先生この先生が近隣でご開業になることが多く、今では知己になってくださり、病院にはとても親近感を感じています。

社会や人間は再生を繰り返すことで強固になると思います。多大の信頼を寄せていた梶田前院長が惜しくも逝去された後も、辰巳哲也新院長がさらに力強い存在として南丹病院を隆盛していかれることにちがひありません。辰巳先生にはご赴任以来、何かと気にかけていただき感謝しています。病診連携を大切にしていこうという新院長の気構えをひしひしと感じ頼もしく思っております。新院長のもと、南丹病院が益々発展されることを心より願っております。



仁丹医院
にたん よしひろ
院長 仁丹 良弘

「南丹病院と私」

約60年前、南丹市園部町に南丹病院分院があったのをご存知の方は少ないかと思いますが、私が昭和39年4月に京都第一赤十字病院を退職して現在の地に医院を開業した頃、園部町美園町に内科と週2回の眼科のみ



の診療所形成の南丹病院園部分院がありました。分院長をされていた宇治市で開業されて亡くなられた故倉先生（元、南丹病院長のご子息）と、園部町内外の患者さんについてお互いに連携し合っ、地域の医療に共に頑張った頃が懐かしく思い出されます。午前の診療を終え車で往診中、出先で出会う路上で患者さんの事等を色々と御教示願った事がありました。

分院閉鎖後は、勿論建物は、壊され関西電力園部営業所に、次いで現在の老健サービス施設に変わりました。

現在の公立南丹病院が、総合病院として二次、三次と改装、充実発展され、口丹波地域の中核病院として大きな地位を築いて来られたのを目の当たりに見て、之一重に今迄の職員の方々の努力は勿論ですが、先日亡くなられた梶田先生の永きに渡る院長としての功績、手腕が大きいと思います。

これからも病診連携を進め、我々開業医と公立南丹病院との繋がりが益々深まり発展される事を祈り、息子と二人共々お世話になっている事に感謝しつつ筆を置きます。



看護職確保定着推進事業

「看護職就職・就学合同フェア2014」に参加して

看護部 みしま てるよ 三嶋 照代

平成 26 年 5 月 17 日 (土) に「看護職就職・就学合同フェア 2014」が開催され 19 校の看護大学・専門学校、57 の病院・施設が参加しました。

看護職をめざす中学生・高校生や、自分にあったやりがいのある働きやすい職場を見つけたいという看護学生・未就業看護職や看護に興味のある社会人の方が進学相談や就業相談にいられました。当院ブースにも多くの学生や保護者の方々におこしいただき、ありがとうございました。

今年度は 5 月 8 日 (木) に行いました「看護の日」(ナイチンゲール生誕の日) のイベント活動で作成した新人研修の様子を展示しました。また公立南丹病院 MAP や休日 EnjoyMAP を作成し、病院の特徴や教育制度だけでなく病院周辺の地域の魅力についても発信しました。

南丹医療圏の医療を守っていくには看護の力が重要です。インターンシップ(職場体験)も随時行っております。ぜひ看護の現場を体験頂き、当病院や看護への魅力を感じて頂けると幸いです。

職員一同お待ちしております。いつでも看護部にご連絡ください。



お知らせ「脳神経・脳卒中センターの対応について」

当院での脳神経・脳卒中センター運営については、担当医師の異動等に伴い、平成 26 年 4 月より従来通りの 24 時間対応が困難な状態となっております。

頭部外傷や脳卒中中等の傷病に対しての救急対応については、平日の対応可能な時間帯においては極力対応させていただく所存ではございますが、特に夜間・休日・時間外では担当医師不在の場合等の事由により対応をお受けできない場合がございます。

ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力をいただきますようお願い致します。

「2025 年問題」をご存知ですか。

2025 年、平成でいえば平成 37 年、今から 11 年先ですが、何が問題かといえば、団塊の世代約 800 万人が 75 歳を迎え、「後期高齢者」が 2179 万人までふくらむ「超高齢社会」となることにより、医療費などの社会保障費の急増が懸念されることです。また、介護や福祉分野の需要はますます増え続け、介護予防やターミナルケアまでを含めた高齢者介護の問題、単身化や孤独の問題が急増すると同時に、「多死の時代」が到来するといわれています。

南丹医療圏の 2 市 1 町でも、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、現在の約 14 万人の人口が 2025 年には 12 万 7000 人まで減る一方、65 歳以上の人口は 4 万 3000 人 (33.8%) で、3 人に 1 人が 65 歳以上となり、75 歳以上の人口は 2 万 5000 人 (19.9%) で、5 人に 1 人が 75 歳以上の高齢者となる社会を迎えることになります。

医療の分野でいえば、今年の 4 月に診療報酬の改定がされましたが、これも 2025 年の超高齢社会を見越してのものです。特に、今回は昨年 8 月に出された「社会保障制度改革国民会議報告書～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～」を受けて実施されたもので、「超高齢社会」を乗り切っていくための社会システムづくり、特に限られた医療資源を活用していくため、病院の機能分化・役割分担を進め、在宅での医療を充実させていこう。併せて医療と介護の連携の下、地域包括ケアシステムを構築していこうとするものです。来年は介護保険の介護報酬改定が予定され、2025 年に向けて今後大きく変わっていきます。

公立南丹看護専門学校学校公開のお知らせ

●オープンキャンパス

8月8日(金) 13時～16時

▶学校紹介・見学・体験学習・在校生との交流・個別相談など

【申込受付締切】

7月31日(木) 17時まで

*体験学習の準備のため、定員になり次第締め切らせていただく場合があります。ご了承ください。

●学校見学会

1回目 8月30日(土) 10時～11時

2回目 11月1日(土) 10時～11時

▶学校紹介・見学・個別相談など

【申込受付締切】

1回目 8月22日(金) 17時まで

2回目 10月24日(金) 17時まで



申込について

①電話またはFAXで氏名・学校名(在学名/社会人)・連絡先(TEL)をお申してください。

②オープンキャンパスの保護者は体験学習の教室には入れません。

受付は30分前より行います。駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。

〒629-0196 京都府南丹市八木町南広瀬3番地1 TEL 0771-42-5364 FAX 0771-42-5422

<http://www.nantan-kango.ac.jp>

看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

●院内保育所が正職員・臨時職員共に利用可

●寮(正職員のみ) 利用可(月額10,480円)

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
公立南丹病院 総務課人事係

TEL 0771-42-2510 (代) までお気軽にお問い合わせ下さい。

詳しくは公立南丹病院ホームページをご覧ください。

<http://www.nantanhosp.or.jp>



病院の夜間出入り口についてのお知らせ

7月1日より警備面での強化を図る目的で、正面玄関は午後9時以降は閉鎖して、休日も含め救急室横の出入り口1カ所のみとしました。警備員室を設けて、夜間・休日の不審者の往来を防ぎ、院内の安全・安心を確保するため、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

編集後記

ビールの美味しい季節になりました。スポーツ観戦をしながら飲むビールはほんとうに美味しいです。私は自転車レースのツール・ド・フランス観戦を毎年楽しみにしています。今年はサッカーワールドカップ観戦で寝不足の方も多いのではないのでしょうか。みなさんも夏バテにならないように、規則正しい睡眠とバランスのとれた食事、涼しい時間帯に適度な運動など日頃の生活習慣に気を付けて健康な体作りをしてください。

(広報委員 K.K)

